

# 平成24年度宮古群島病害虫発生予報第4号(7月予報)

## I 7月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	40	30	40
平年並	40	30	30
低い(少ない)	20	40	30

(平成24年6月22日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	28.7	31.6	26.6	130.8	246.7

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

## II 7月の発生予報および防除上の注意事項

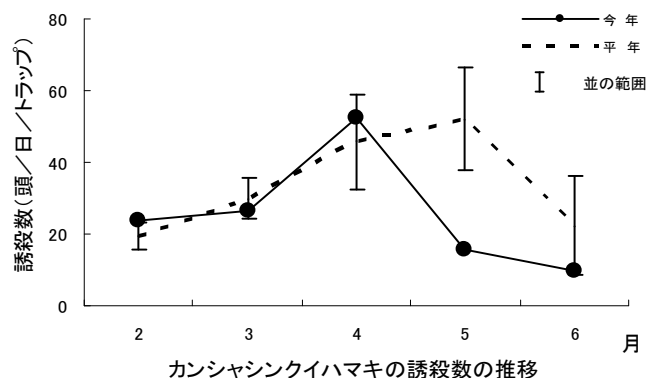
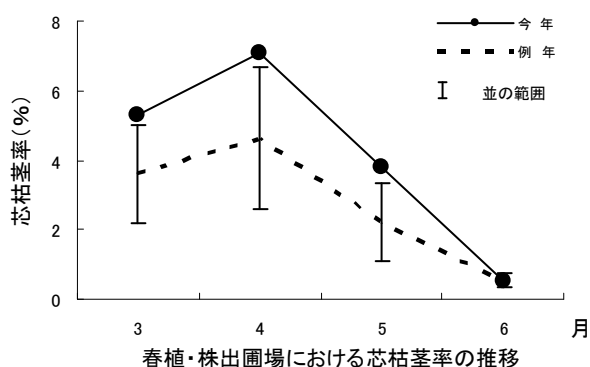
### 1 さとうきび

#### (1) カンシャシクイハマキ

発生程度 : 並

予報の根拠

- a 6月中旬の調査の結果、春植・株出圃場における芯枯茎率は0.6%(前年0.4%、例年0.5%)と例年並であった。
- b 6月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は9.9頭(前年15.6頭、平年22.4頭)と平年よりやや少なかった。

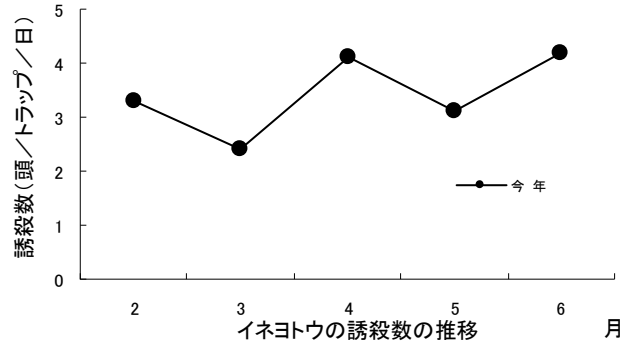
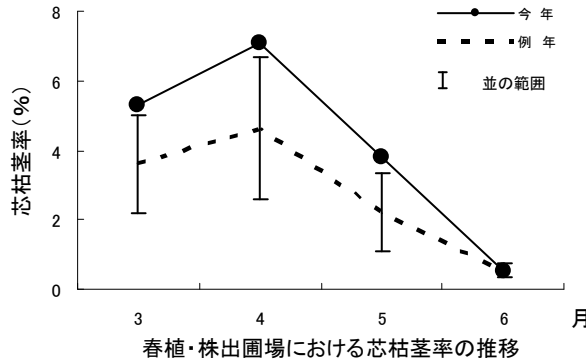


<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- d 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

○ イネヨトウの防除対策

- 6月中旬の調査の結果、春植・株出圃場における芯枯茎率は0.6%(前年0.4%、例年0.5%)と例年並であった。
- 6月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は4.2頭であった。
- 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。

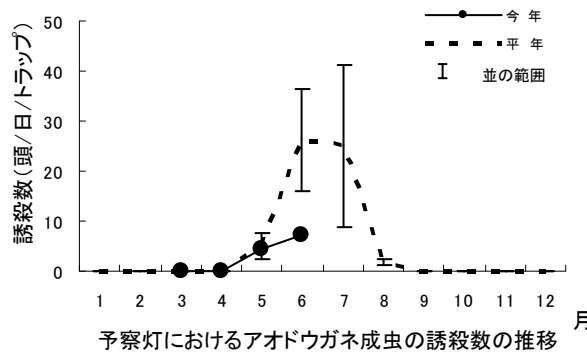


<防除上注意すべき事項>

カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。

○ アオドウガネの防除対策

- 6月の予察灯への日当たり誘殺成虫数は、7.3頭(前年14.5頭、平年26.3頭)と平年よりやや少なかった。
- 5～7月は成虫の発生時期にあたるので、誘殺灯の保全・管理を徹底する。
- 7月は幼虫の防除適期(1～2齢期)にあたるので、例年被害の多い地域では防除適期を逸しないように薬剤を施用する。



○ イナゴ類の防除対策

- 6月中旬の調査の結果、一部圃場でイナゴ類(ヒゲマダライナゴ、タイワンツチイナゴ)による葉の食害がみられた。また、周辺雑草で幼虫の多発生がみられた。
- 気象予報によると、向こう1か月の気温の高い確率、降水量の少ない確率がともに40%と予想されており、イナゴ類の発生を助長すると考えられる。
- 発生源となる圃場及び周辺の除草を徹底する。
- タイワンツチイナゴは4齢以降にさとうきびの葉を加害するようになるので、発生圃場では早期に薬剤防除を行う。
- 平成24年度病害虫発生予察技術情報第2号参照(平成24年度4月27日付)。

## 2 マンゴー

- 細菌性病害の防除対策
  - a 折損等の傷から菌が侵入し発病することから防風対策を図る。
  - b 罹病した部位は速やかに施設外に持ち出し、焼却等の処分を行う。
  - c 罹病枝を剪定した後の剪定器具の消毒を徹底する。
  
- チャノキイロアザミウマの防除対策
  - a 6月下旬の調査の結果、一部圃場で多発生がみられた。
  - b 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
  - c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。